

## 会議要録

会議の名称	令和7年度 第2回和光市文化財保護委員会
日 時	令和7年11月5日（水）14：00～16：00
場 所	和光市役所 6階 603会議室、新倉ふるさと民家園（視察）
出 席 者 ※敬称略	<p>【文化財保護委員】委員7名が出席 田中明、鈴木敏弘、大平秀和、岩田昌之、保科裕、白井和広、 浅野里香</p> <p>【事務局】</p> <p>【教育委員会】石川教育長、横山部長</p> <p>【生涯学習課】</p> <p>細野課長、山本課長補佐兼文化財保護担当統括主査 文化財保護担当 中岡主査、相田主任、大澤主事</p>
傍 聴 者	0名

### 1 開会

- 1 市民参加条例第12条第4項の規定による会議公開及び要点記録による会議録の公開について説明。
- 2 配布資料について説明。

### 2 教育長あいさつ

本日はお忙しい中、和光市文化財保護委員会にご出席いただき誠にありがとうございます。

先月は、市内の神社で市指定文化財である、さら獅子舞や白子囃子が奉納され、また旧富岡家住宅のある新倉ふるさと民家園では収穫祭が開催されました。天候の優れない日もありましたが、多くの方がお越しいただき、市の文化財に親しんでいただける良い機会となりました。日ごろから保存管理に尽力されているみなさまのおかげで公開が実現できていますので、市といたしましても、管理者のみなさまと連携し適切な保存活用に引き続き取り組んで参りたいと思います。

本日の会議では、令和6年度に実施した午王山遺跡の保存活用事業について、委員の皆様からご意見ご評価をいただきます。午王山遺跡は令和2年に国史跡に指定されて以来「保存活用計画」に基づき、保存、活用、整備を進めております。その取り組み内容について皆様にご確認いただき、

今後の改善に繋げてまいりたいと思います。

また、会議の後半では、旧富岡家住宅で実施しております屋根の差し茅を現地でご覧いただく予定になっております。

文化財保護委員の皆様におかれましては、どうぞ忌憚なくご意見をいただきますようお願いいたします。

本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

### 3 議題（協議・報告）

#### （1）令和6年度史跡午王山遺跡保存活用状況について

議題（1）令和6年度史跡午王山遺跡保存活用状況について資料に基づき説明。

○田中委員長

事務局の報告について、質問やご意見などはあるか。

○岩田委員

分類1の保存に関して、大雨など降ったときの対応は検討されているか。

和光市も 100mm 近い雨が降ったこともあり、午王山遺跡の崖地が崩れる恐れも考えられる。大雨の後は臨時点検・緊急点検をやるのが基本かと思うが、なにかされているか。

○事務局

昨年度も令和5年度の事業報告の際に緊急対策の項目の作成の検討をすべきであるというご意見をいただいたことから、現在簡易な日常観察用のシートをつくり、それを元に現地の観察などをしている。

また、斜面の関係から有識者会議を別に立ち上げ、地盤工学の専門の方に入っていただき、安全対策などについて検討する体制を作りたいと考えている。

○岩田委員

せっかくそのような観察用シートや委員会について検討されているなら活用状況において報告していただくほうが良いかと思う。

○保科委員

分類2の活用に関して、（2）の学校教育の場との連携ということで、市内学校教員の研究会に講師を派遣し弥生時代の社会と午王山遺跡についての解説

を行ったとあるが、その時の先生方の反応や反響はどのようなものだったか。

#### ○事務局

講師として生涯学習課の職員が向かったが、やはり午王山遺跡についてよく知らないという先生も多い中、解説の後に有志の方々で現地に行っていただくなど興味を持っていただけた。いただいた感想を一部挙げると、「弥生時代を身近に感じることができた」「授業で子どもたちに話せる情報がたくさんあり分かりやすかった」などがあった。

#### ○保科委員

話を聞くだけだと実感が沸かないと思うため、現地にも行った方が良いのではと言おうとしたが、有志の方で行かれたのならよかったです。今度はぜひ有志と言わずに、和光市の中学校の教員の方々みんなに直接見に行く研修会など開けたらとてもよいと思う。

実感という話に続けて言うと、午王山遺跡現地に住居の復元を一つでも作れたら理想だと考える。作るのにも、その後の保守管理についても難しい部分が多いとは思うが、公園ができてからそのあと作るには時間がかかるだろうから、今から検討いただきてもよいかと思う。一つでもあると現地に人を連れて行ったときに実感の助けになるのではと考える。

#### ○事務局

現状として、住居址の復元までは出来ていないが、防草人工芝で環濠の復元を実験的に試みたり、植木鉢を使って住居の形を分かるように配置したりはしている。分かりづらい箇所もあるため、それらをどのように分かりやすく整備していくか工夫の必要があるように感じている。

#### ○鈴木副委員長

立体的に認識できないと実感は難しいと考える。平面的なものは遺跡や歴史に精通している人でないと一目で理解できず、せっかく見に来ても直感的に分からまま帰ってしまう。ところが復元家屋一つあると詳しくない人でも認識できるため、予算などの関係で時間もかかることが前向きに検討していただきたいと思う。

この整備活用の話題に付随して言うと、午王山遺跡の整備を熱心にしていた

だいているのは分かるが、例えば環濠の断面剥ぎ取りに関しても重要な作業であったが、そのあと活用できているか、という点が気になっている。

常設展示する場所がないことが一番の問題だと考える。たとえ小さなところでも、遺物展示でも立体的なものなら実感できる、それがあそこに行けば日常的に見ることができますよ、というところが作れたらと思う。古民家や公民館などの一角でも土器や写真展示を常にできれば、午王山遺跡の認知度向上がはるかに進むと考える。そのような場所とそのための専門的な学芸員などの人材が必要と考える。

○岩田委員

まずは堅穴住居址の復元や展示用のプレハブなど作るとしたらいくらかかるか、予算だけでも今年度中に取り掛かってみるのはいかがか。

○鈴木副委員長

最近は復元住居をつくるところも多いので、そこまでかからないと考える。県内でもいくつか類例はあると思うので何箇所かに聞いてみるのが良いと思う。建てた後の管理についてもまたかかると思う。

○岩田委員

管理も含めて、まずはライフサイクルコストを作ってみたり調べてみたりするのが一歩だと思う。

○事務局

堅穴住居の復元にかかる費用について、情報収集していきたいと思う。

○岩田委員

多賀城の事例について、版築の実験に関わったことがあるが、広い野原のなかに本当にあの赤い南門しかない。しかしあれが出来た途端、なんだかここはすごかつたみたいだと、奈良時代にあんな立派なものがあったんだと話題になりお客様も増えていると聞く。先ほども意見があったようになにか一つあると見に行ってみようとなるので住居址を作るという方針で進めていただくのは良いと思う。

### ○鈴木副委員長

それに付随して説明版や写真を飾ったり、レプリカを置いたり、子どもたちにもわかるような仕掛けがあるとより良いと思う。

実際に発掘されているような竪穴住居址に限らず、見た人が弥生時代とはこういうものがあったのかと分かりやすい高床式倉庫でも良いと思う。登呂遺跡などが代表的な例だが、そういう事例を参考にして検討いただきたい。

### ○田中委員長

最終的に何年かかるか分からぬが、午王山遺跡をきちんと保存整備、また周知することで、市民の人々が自覚できるようなものにしていくべきであるとまとめられると思う。その一つとして、住居址は有用な手であると思う。

### ○鈴木副委員長

周知と出たが、発信力について言及したい。考古学というものは一時期マスコミの影響を味方に遺跡の保存を進めていた。吉野ヶ里遺跡も元は工業団地を作ろうとしていたところを国の史跡として九州で一番大きい環濠集落として保存し観光地化した。結局考古学の保存については、知名度が一番肝心で、世論が支持することが重要である。その点でいうと、午王山遺跡は発信力が弱いと言える。国の史跡になって整備しても、その情報発信を絶えず続けていかなければ結局注目も集まらずに活用も続かなくなる。単に復元家屋を作るだけでなく、そのような取り組みをしているということを、こまめにマスコミや学校など関係に宣伝しなければ、何のために復元するのかも分からなくなる。伝えていく努力が重要である。

### ○白井委員

分類2の活用の中に、午王山だよりを令和6年では3回発行したとあるが、どこで公開・配布しているか。また、小学校との関わりの中で午王山遺跡の場所が分からぬという意見をよく聞く。地元の人も具体的に場所を思い浮かべられないと聞くので、看板などを増やすのも一つの手かと思う。

また、鈴木副委員長が言及された注目を集めるという点で、先日行田タワーという新しい建物をきっかけに行田に観光客が増えたという。有名キャラクターとコラボするなど発信・周知に力を入れられていて、町おこしにもなっているとのこと。新しいものを作りその上で話題にさせることの重要性を感じた

事例であった。

#### ○事務局

午王山だよりについては、市内の公民館、図書館、市役所庁舎内にそれぞれ20部程度発行し置いている。また、市のホームページにも掲載し、いつでもダウンロードできるようにしているが、現状分かりづらい状態であると思われる。

看板についても貴重な意見ありがたい。整備に至るまでどのように周知していくかが課題であると感じる。一部案内看板にはQRコードをつけており、市ホームページの午王山遺跡のページに飛ぶようにしているが、これも現状より知られる必要があり、その工夫を考えていきたいと思う。

#### ○岩田委員

以前の会議で、ドローンの活用について話したが、午王山遺跡を上から映した映像などは市で所有されているか。最近はドローンで撮影した文化財の映像をYouTubeに上げられている。これが意外とマニアな方々が見られている。午王山遺跡を上から見られるような人はいないし、遺跡は横から見ても分からぬものである。動画であれば上から鳥のように見られる魅力がある。一度思い切って予算をかけて撮影し、YouTubeなどで公開・拡散させるような宣伝方法はいかがか。

#### ○事務局

空中写真であれば、過去に鈴木副委員長が撮られたものや、国史跡に指定される時に全面を撮影したもの、発掘調査の際にドローンを飛ばして発掘箇所を撮影したものはいくつかある。その中で空中写真を3Dで立体的に示したものもあり、これらは市ホームページに載せるなど、市民の方々の目に触れられるように工夫していきたいと思っている。空中を撮影した動画については、現状ないので、今後検討したいと考える。

#### ○保科委員

ドローンについては、つい一か月前に川の石の調査をするときに人に頼んでやってもらった。ドローンの撮影というのは許可が様々に必要である。人の家が映ってしまうと許可が簡単に下りないときがある。高架下や電線が

あるために撮れないなど色々難しい部分がある。

また、動画をインターネットに上げるについても許可や確認が必要になると  
思う。特に行政の事業となるから慎重に実施しなければならない。

○岩田委員

文化財の保護・活用とすれば、国や県からの許可も降りやすいのでは。  
実施までに様々な課題はあると思うが、有効活用のために検討いただければ  
と思う。

○浅野委員

分類2の活用、（2）学校教育の場との連携について、市内小学校中学校での  
午王山遺跡を社会科見学で取り扱うなどされているか。国の史跡がある自治  
体は多くはないと思うため、ぜひ市内に住む子どもたちに学ぶ機会を提供し  
ていただきたい。

○事務局

現状として、社会科見学は実施できていない。子ども向けの取り組みについては、午王山遺跡の易しい解説ができるようなパンフレットの作成を検討して  
いる。パンフレットができれば現状より遺跡について解説しやすくなり、これをきっかけに子どもたちに現地に来てもらえるような仕組みを作っていければ  
と考える。

○浅野委員

学校の授業を通して、課外授業の部分で和光市の歴史に触れる時間は今もある  
とは思うが、ぜひ午王山遺跡についても教育の中できちんと子どもたちに  
伝えていただくようカリキュラムに組み込まれるのが理想かと思う。

○事務局

学校教育の場との連携も進めていきたいと思う。

○田中委員長

他に無ければ、次の議題に進む。

## (2) その他

○田中委員長

「議題（2）その他」について、事務局より説明願いたい。

○事務局

- ・午王山遺跡保存整備検討委員会について

今後の午王山遺跡の整備基本計画を策定するにあたり、今年度中に現在午王山遺跡調査指導委員会の委員である考古学の有識者に加え、地盤工学、造園学の有識者を委員に迎えた午王山遺跡の整備を検討する委員会を立ち上げる予定。

この有識者会議にて課題等を整理しつつ、加えて市民の方々に入っていただく整備基本策定委員会を立ち上げ、令和10年までに整備基本計画を策定したいと考える。

午王山遺跡保存整備検討委員会については、文化庁・埼玉県にオブザーバーとして関わっていただく予定。

- ・和光市制施行55周年記念特別表彰について

文化功労部門 下新倉ささら獅子舞保存会、和光市白子囃子保存会が受賞

- ・令和7年度和光市表彰

文化功労部門 大平委員、並木委員が受賞（文化財保護委員10年）

- ・並木委員 「旧新座郡下新倉村 旗本酒井家と壹鑑寺」刊行

市内図書館2館に2冊ずつ、市内公民館3館に1冊ずつ配架

- ・生涯学習課主催 歴史講座「和光の中世を歩く」開催について

11月29日、12月6日実施（座学、フィールドワークの連続講座）

講師：野澤 均（文化財調査指導員）

定員：15名（先着順募集）

○田中委員長

他に協議がない場合は、議題として挙げられた事項の審議は終了とし、事務局に進行をお返しする。

○事務局

議題（3）新倉ふるさと民家園 屋根修繕（差し茅）については、現地視察のため、庁用車でご移動いただく。10分の休憩後1階のロータリーに集合お願いする。

**(3) 新倉ふるさと民家園 屋根修繕（差し茅） 視察**

庁用車にて新倉ふるさと民家園へ移動

修繕の委託業務受諾者である町田工業による解説・案内

視察終了

○事務局

今後のスケジュールに関して、次回の会議は3月の開催予定となる。日程決まり次第お知らせする。

**7 閉会**

以上。